

水、氷、雪、海、空、そして水中

水に関わって 60 数年 潜水で 50 年

関西潜水連盟名誉顧問 山本 進



関西潜水連盟 創立 40 周年誠におめでとう御座います。

この度 KD japan 名誉会員の称号を戴き、誠に有り難うございます。KD japan の名付け親として、子供から褒められ嬉しいような、照れくさいような複雑な気持ちです。

水、氷、雪、海、空、そして水中。30 周年記念誌にない私の思い出。思い起こせば私が水に関わったのは 1947 年（当時 14 歳）戦後間もない食糧難の頃。住んでいた大阪城公園近くの小川でアメリカ・ザリガニを三角網で取り、母から貴重な蛋白源だとたいそう喜ばれたことは今でも鮮明に覚えています。1950 年 ヨットを始める。しかし、自分の意思ではなく、風の気まぐれに水の上を自由に動き回れないのなら氷の上を滑ろうとアイススケートを覚えた。しかし、狭いリンクの中ではやはり物足りなく思い 1953 年 雪山スキーを始める。我流で得意になっていたが 1956 年 大阪府スキー連盟のスキースクールで何事も基礎を習わないと上達しないと悟る。1954 年 夏琵琶湖で水上スキーを初めて経験。こんなにスピード感のある遊びが世の中にあったのだろうかと驚いた。水圧を足の裏に感じ、水面を自由に滑る爽快さは言葉では表せないような面白さがありスリル満点のスポーツだと感じた。その後、数年間は仕事の合間に冬はスキー、夏は水上スキーに明け暮れ、1959 年には箱根芦ノ湖で開催された第 5 回全日本水上スキー選手権大会に関西代表として参加し、以後 10 年連続で大会に出場した。そして、関東と関西のレベルの差を埋めるべく、同好の志に呼びかけ 1961 年 夏、大阪、京都、神戸、和歌山、四国 5 都市から 35 名が集まり第 1 回 関西水上スキー選手権大会を当時立ち上げたばかりの 大阪府水上スキー連盟主催で、ほとんど自力で開催しました。後に西日本水上スキー選手権大会と名を替えて 46 年間続いたものの景気の後退と共に 2005 年その幕を閉じました。

- 1960 年 水との関わりが高じ本業の傍らスキーと水上スキーの専門店「大阪マリンスポーツ（現株式会社 マリン）」を創業。
- 1961 年 スキン、スクーバダイビングを再開し本格的に始める。
潜水科学協会役員の巖さんと知り合う。
- 1963 年 西日本水中スポーツ連盟発足。
日本で初めて館石昭、須賀次郎 両氏がスクーバで 100m 潜水に挑戦、90m 潜水に成功。それに刺激された私は日本海、竹野から西は越前岬まで年間 100 回以上潜水をおこなった。
- 1966 年 潜水科学協会が発展的解消。
- 1967 年 三重県紀伊長島で準指導員検定会開催。
- 1968 年 新潜水科学協会発足。関西で初めての準指導員検定会を京都府島陰海岸で開催。参加。
- 1969 年 第 1 回指導員研修会を舞鶴海上自衛隊で 3 日間実施。関西及び長島での準指導員合格者

を対象としたもので、私を含め 25 名の指導員が誕生。

新潜水科学協会と西日本水中スポーツ連盟が合併し関西潜水連盟が正式に発足。

10 月末 和歌山県白浜町で連盟主催の準指導員検定が行われ、32 名が受講。

毎年関西水上スキー選手権大会に出場するなど、10 年続けた水上スキーを引退し審判委員に。



KD バッチ

1970 年 関西潜水連盟に指導員 25 名、準指導員 47 名、計 72 名が登録され近畿、中国・四国での潜水教育が本格的にスタートした。

NAUI 日本に上陸。

1971 年 北は北海道・南は九州鹿児島から約 150 名のダイバーが三重県・長島に集まり事故対策及び教育、指導の均等化、安全基準を統一化の話し合いが行われた。

私も大阪代表として、他 2 名と出席、長島でのダイビングも楽しんだ。

1972 年 前年に引き続き合同会議が伊豆海洋公園で開催。3 日間の協議の末、関東の日本潜水会、中部潜水連盟、関西潜水連盟、この年上陸した PADI 潜水指導協会の 4 団体で全日本潜水連盟

(JUDF) が設立され全国を 11 のブロックに分け活動を開始することとなる。

関西だけは当初から京都・神戸・大阪がそれぞれ支部として、また関西潜水連盟として独自の働きをすることで加盟する。

沖縄が返還され沖縄支部も同時に活動開始することになる。

1973 年 返還後の沖縄で全日本潜水連盟主催 (JUDF) 第 1 回指導員検定を開催。本土からも参加 34 名が受講。最終日に故 望月氏が水中ナビゲーション競技を説明し、検定受講者・役員一同も参加し第 1 回 JUDF 指導員研修会とした。

11 月私、他 2 名で 18 フィート 200 馬力のモーターボートで大阪→沖縄を 5 日間かけて走破。沖縄で 1 ヶ月間 ダイビングを楽しむ。(ポイント開拓 等)

マリンプール建設 全国でも珍しい縦 7m×横 5m×水深 7m のダイビング専用プールを大阪・森ノ宮に建設。



1974 年 四国・北陸地区での第 1

回指導員検定をそれぞれ開催。

1975 年 沖縄海洋博で全日本水中競技大会開催。関西からも京都・神戸・大阪の各支部が参加。関西準指導員検定を福井県敦賀半島で開催。

第1回関西救急再圧員資格取得講習会を大阪市立労働会館で開催。約40名が受講。
マリン、和歌山・湯浅に海洋訓練場開設。

1976年 飛行機の免許を取得。子供の頃からの念願であった水上飛行機の免許を取得するために米国・マイアミに3ヶ月間飛行機留学。空の知識と水の特性を知って風と波の影響を読み、離着水、水上航走。補助翼、上下翼、尾翼を使つてのセーリングを訓練し無事免許を取得。その間にマイアミ～キーウエスト、キーラーゴでダイビングを行い、日本、グアム、サイパン、バリ、フィリピンなどとの海の違いを体感する。

ヘリウム酸素呼吸器使用特殊

潜水並びに水中溶接切断資格取得。



1977年 大阪府・枚方市ヤングプラザで関西潜水連盟第1回総会を大阪支部担当で開催。125名が参加。

以後毎年各支部が持ち回りで総会を開催。

1978年 双発陸上飛行機の免許取得のため約2ヶ月間マイアミへ。同時にヘリコプター免許を取得。

アクロバット飛行機ピッツで5Gを体験。エンジンのパワーと空気抵抗、空気の流れ、風の読み方、コンパス方位、ジャイロコンパス、無線とADF(各地にあるラジオステーションからの電波で自分の位置を知る)方法などダイビングにも役立つ知識を身に付ける。

伊豆海洋公園PADI ITCスタッフとして参加。

1979年 最終目標である双発水上飛行機の免許取得。

大阪支部主催の春の水中運動会開催。約100名参加。

JUDF指導員研修会として海上自衛隊江田島潜水学校に3日間体験入隊。関西から多数参加。

波高3mでも離着陸可能で有名な水難救助飛行機の内部も見学。

1980年 旧BSACインストラクター・クロスオーバー取得。

1981年 救急再圧員資格取得講習会を神戸勤労会館で開催。以後約20年間兵庫で開催。

1982年 NAUI・JAPAN NASA・YMCA インストラクター・クロスオーバー取得

1983年 NASDS ITC参加。

マリン、白浜海洋センター(ダイビング専用施設)和歌山県白浜町に建設。

2年後に25mの海水プール併設。

1984年 大阪労働基準局監査の救急再圧員養成講習会を大阪市市岡市民会館で開催。

約300名受講。

1986年 全日本潜水連盟(JUDF)より脱退。新生・関西潜水連盟としてロゴを「KD japan」と名づけ継続する事に決定。独自の道を歩み始める。

1987年 沖縄に端を発した潜水安全協議会が海上保安庁の指示により各地にスクーバダイビング安全対策協議会として設立が進められ、三支部もそれぞれの管轄に参加。

- KD japan インストラクターマニュアル作成。
- 1988年 第1回KD JAPAN ITCをフィリピン・アニラオで開催。16名が参加。
第20総会 大阪で開催。約150名が参加。
KD japan インストラクターマニュアル加筆・増刷。
- 1989年 文部省と社会スポーツセンター、国内潜水指導団体が加盟した文部大臣認定
スクーバダイビング指導者資格制度発足。第1回研修会を私も含め約160名が受講。
- 1990年 (社)日本海洋レジャー安全・振興協会による安全潜水管理者制度発足。取得。
京都府網野町にダイビングサービス及び温泉・料理旅館「丹一荘」を開設。
- 1996年 大阪海上保安管部と大阪支部合同で救急再圧員資格取得講習会を開催。
- 1997年 大阪海上保安管部と大阪支部合同で救急再圧員資格取得講習会を開催。
- 2003年 マリン、大阪市中央区に長さ12.5m×幅5.2m 最大水深8m 深さ4段階日本
最大級規模のダイビング専用プール建設。

以上のように75年間の私の人生はほとんどが自然と接してきました。現在まで20,000本以上のダイビングを行い、今年も100本以上潜水を達成しています。人間、年齢を重ねても何でも覚えられるものです。現に私も45歳を過ぎてから英語による飛行機の免許取得。人生でこれほど勉強をしたのは初めてだったかもしれません。

そして、「本当の勉強は免許や資格を取った時から始まる。」ものだと実感しております。何事もやればやるほど奥が深い。ましてダイビングは水中で空気量の制限を受ける特殊なスポーツです、よほどのトレーニングを行わないといけません。

少年時代より水と関わることで、海になじみ、海の偉大さ、恐ろしさ、力強さを、一方神秘的な海の魅力、底知れぬ母なる恵みと包容力を持つ広大な海に魅了され続けています。

海を愛し、ダイビングを楽しんでいる皆様、今後一層の研鑽と安全潜水を希望いたします。

長くなり読みづらいところ、年号の記憶違いなどもあるかと思いますがご了承下さい。